校長室だより～燦燦～ №６０１

団長

2022.8.9

７月中旬に修学旅行に行ってきた。福島市の中学校の修学旅行に参加するのは、数えてみると、１７年ぶりだった。一昔前どころの話ではない。

その間、教頭として、小さな中学校の修学旅行に団長として参加したことがある。その学校では、校長と教頭が交互に参加していた。教頭の私は、修学旅行に行くことなど考えていなかったため、自分が行くと知ったときには、多少驚いた。

この中学校の修学旅行は関西方面だった。京都、大阪に行った。飛行機で仙台空港から伊丹空港まで行き、後は電車などを使った。生徒にとっては、大きな経験である。これが修学旅行の意義の一つである。人数が少ないというのは、楽というか精神的な重みが違うということを、この修学旅行で知ることができた。

教頭ではあるが、修学旅行の団長を務めたわけである。あのときの３年生は、旅行中から私のことを“団長”と呼んでくれた。それは、修学旅行が終わっても続き、結局卒業するまで私は団長だった。今でもいい思い出である。

小学校の校長としても、修学旅行に参加したことがある。人数はさらに少なかった。こじんまりしたものだった。松島に行き、泊まった。それだけでも小学生にとっては大きな経験である。仙台にも行った。ただ、奥会津から仙台までは遠い。福島からとはだいぶ違う。かといって、飛行機も使えない。地理的な条件は如何ともしがたい。

高校では、校長として修学旅行に行く気満々でいた。だが、いつまで経っても何の話もこない。すると、この高校では、校長と教頭が交互に行くことを知った。１年目は、教頭先生の番だった。あえなく留守番となった。次の年、いよいよ満を持して団長になれると思ったら、その年は、コロナ禍１年目だった。修学旅行はなくなった。

そして、今年度である。修学旅行の結団式で「私は校長を辞めます。明日から３日間、団長となります。３日間は修学旅行に集中するということです」と話した。旅行中に、何人かの生徒が、私を“団長”と呼んでくれた。懐かしい響きだった。

だが、野田中学校の３年生は、修学旅行が終わると、誰も団長などとは呼ばなくなった。学校に戻っての解団式では、すでにチャンネルが切り替わっていた。メリハリというか、気持ちの切り替えがすごい。いつまでも浮かれてなどいない。私も団長から校長に戻るしかなかった。

コロナ禍により、多くの学校で、修学旅行が中止となったり、計画を変更したりしてきている。今回は、何とか３日間の行程を無事に終えることができた。やはり修学旅行は行った方がよい。それだけの教育的な価値がある。そのことを再認識できた３日間だった。

次は、いつ団長になれかはわからない。福島市の中学校では、毎年、校長が修学旅行に行っている。ということは、来年の４月には、再び団長になれる見通しである。そうなることを願う。